

もうだいぶ前の話になりますが、私が新入職員の時、JRの
新入社員と一緒に車両基地にて新人研修させていただいていた
時のことです。現場の指導者と一緒に車両の屋根に上がって
点検作業を行う際に、その指導者が私に向かって「電気の流れ
が見えるような研究をしてくれないか。もし電流が直接見える
ようになれば、屋根に上がる時、感電の危険性が格段に下がる
だろう」とおっしゃっていました。

あれから20余年、私は電気とは異なる研究分野に携わって
いますが、電気に限らず鉄道には多くの分野でさまざまな流れ
が存在しています。今月号では、鉄道の人の流れ、列車の流れ、

情報の流れ、電気の流れ、空気の流れを紹介しました。これら
の鉄道の流れをみることは、先ほどの新人研修時の話のように
安全性の向上、また、快適性や経済性などを向上させるための
有力な手段となります。今後も、幅広い研究分野をカバーする
鉄道総研の特色を生かし、現場の要望にも応える研究開発を進
め、鉄道の発展に貢献できるよう取り組んでまいります。

次号の特集は「鉄道の利便性を高める」です。鉄道をより利
用しやすくする、また、より多くの人に利用してもらうための
利便性向上に関連した最近の研究成果について紹介します。ど
うぞご期待ください。(Y.S.)